

2008年社会保障・人口問題基本調査
第4回全国家庭動向調査
結果の概要〔要旨〕

国立社会保障・人口問題研究所
<http://www.ipss.go.jp/>

I. 調査の概要

- ・全国家庭動向調査は、出産・子育ての現状、家族関係の実態を明らかにし、家庭機能の変化の動向や要因を把握し、厚生労働行政の基礎資料を提供することを目的としたものであり、5年周期で実施している。
- ・第4回目となる今回の調査は2008年7月1日に配票自計方式で実施した。
- ・調査票配布数は13,045票、回収された調査票は11,046票（回収率84.7%）、このうち有効回収票は10,009票（有効回収率76.7%）であった。ここでは、有配偶の妻が回答した6,870票を対象に分析した。

II. 結果の概要

○夫と妻の役割関係

(1) 妻の家事時間と夫妻の家事分担

- ・平日の妻の平均家事時間は、30歳代まではほぼ5時間、40歳代では4時間半程度となっている。家事時間が1日6時間以上の割合の最多は30歳代で30.4%、20歳代でも25.0%である。
- ・休日の妻の平均家事時間は、20歳代、30歳代および60歳代で平日との差異が小さいのに対し、40歳代、50歳代では平日に比べ30分程度長い。40歳代の妻の3人に1人程度（33.4%）は、休日に6時間を超す家事をこなしている。

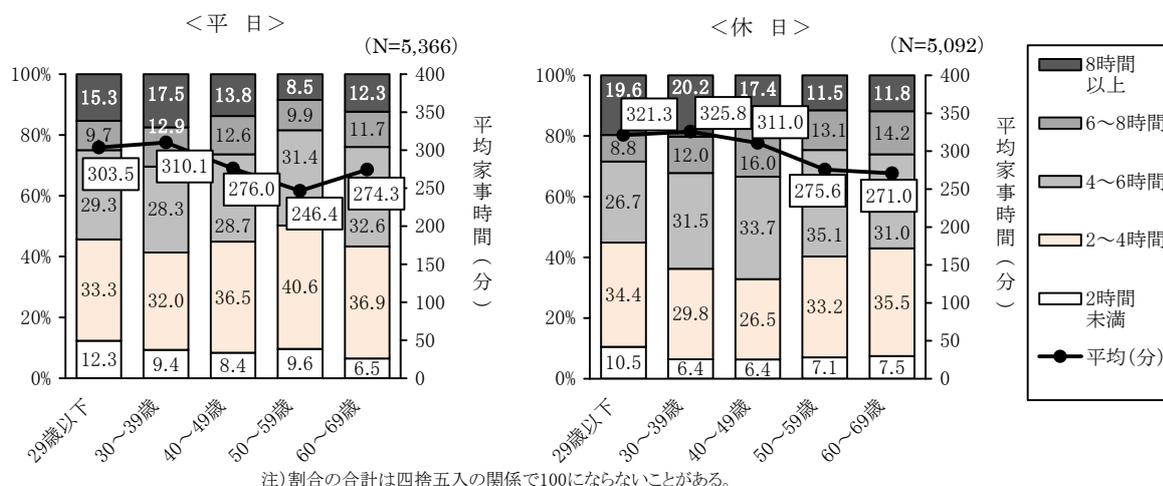
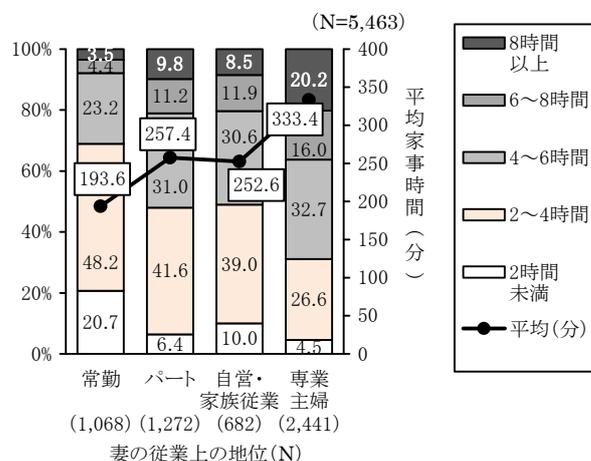


図1 妻の年齢別にみた家事時間（平日、休日）

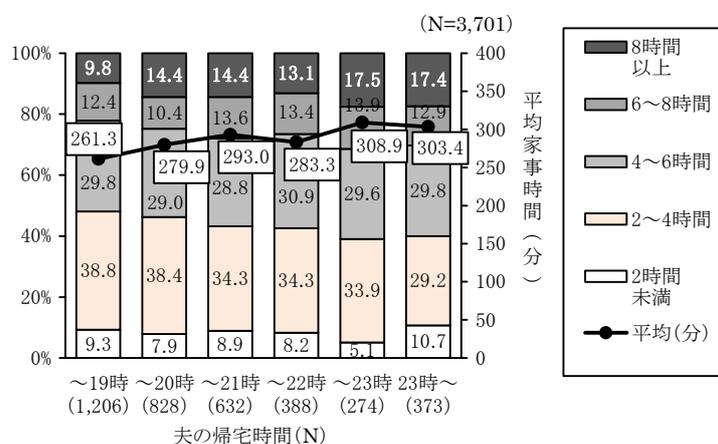
- ・常勤で働く妻の平均家事時間は、パートや自営・家族従業の妻に比べると60分近く、専業主婦に比べると140分以上短い。しかし、常勤で働く妻でも平日に4時間以上家事を行うものは3割(31.1%)いる。



注)割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

図2 妻の従業上の地位別にみた家事時間(平日)

- ・夫の帰宅時間帯別にみた妻の平均家事時間の差は最大で(19時までに帰宅と22時以降に帰宅の差)約50分近くあり、早い時間に夫が帰宅した方が妻の家事時間は短い。



注)割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

図3 夫の帰宅時間帯別にみた家事時間(平日)

- いずれの就業形態においても家事の80%以上を妻が担うケースが多数を占めるが、妻が常勤の場合、妻の家事分担割合が80%未満のケースは相対的に多くなる。ただし、妻が常勤の場合でも、妻が家事を100%担っている、換言すれば夫は全く家事を分担しないケースが16.0%ある。

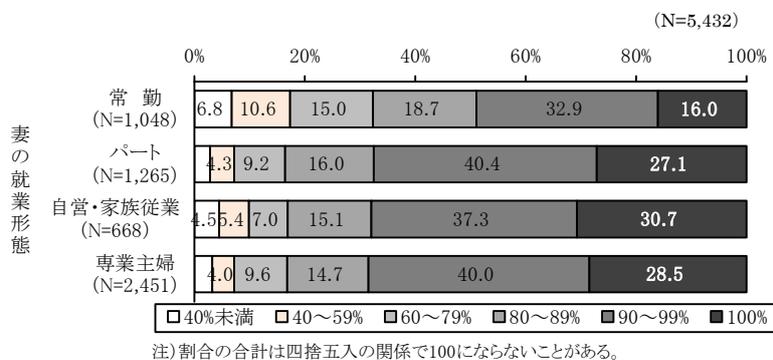
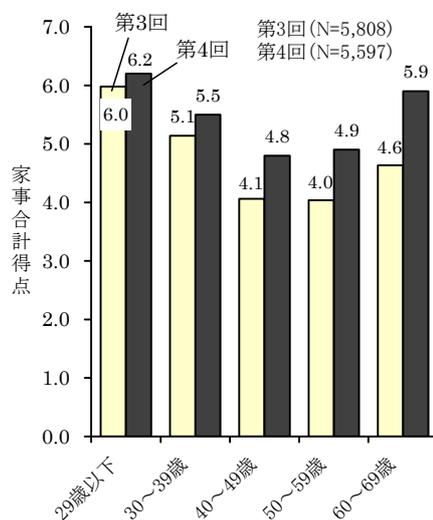


図4 妻の就業形態別にみた妻の家事分担割合

(2) 夫の家事遂行の実態と変化

- 妻の年齢別にみた夫の家事合計得点の平均は全年齢で第3回調査よりも第4回調査の方が上回っている。また、29歳以下が最も高い得点に対し、40歳代が最も低い得点となり、40歳代を底にした浅いU字型を表すような家事遂行行動は第3回調査と同様である。



注) 家事合計得点の計算は、各領域別に「月1~2回」行う場合は1点を付与、同様に「週1~2回」程度2点、「週3~4回」程度3点、「毎日・毎回」行う場合は4点、「やらない」場合0点とし、第3回との継続項目(ゴミ出し・日常の買い物・部屋の掃除・洗濯・炊事・風呂洗い・食後の後片付け)7領域全ての得点を合算したものの。

図5 妻の年齢別夫の家事合計得点

- ・妻の年齢別に夫の家事遂行割合（週 1～2 回以上遂行する割合）をみると、いずれの家事項目でも若い世代の方が高く、年齢の上昇とともに 40 歳代、あるいは 50 歳代まで低下する。
- ・末子の年齢別にみると、末子年齢 3 歳未満の方が末子年齢 3 歳以上に比べてほとんどの項目で夫の家事遂行割合は高い。
- ・妻が常勤である夫の家事遂行割合は専業主婦など他の就業形態の場合よりも高く、第 3 回調査に比べて家事遂行割合の上昇がより明瞭である。

表 1 属性別にみた夫の家事遂行割合

	総数		ゴミ出し		日常の買い物		部屋の掃除		洗濯		炊事		風呂洗い		食後の後片づけ	
	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回
総数	5,808	5,597	36.4%	42.1%	31.9%	39.9%	16.7%	20.7%	17.7%	25.3%	15.7%	19.4%	24.7%	29.3%	23.1%	30.7%
妻の年齢																
29歳以下	459	309	53.6	57.3	37.9	51.8	19.6	23.6	19.2	29.4	21.8	24.9	34.8	34.3	36.5	44.7
30～39歳	1,482	1,297	43.8	45.7	35.9	39.2	15.7	20.4	19.6	25.1	15.7	20.7	29.0	30.6	27.6	35.8
40～49歳	1,439	1,317	31.0	36.4	29.9	36.6	15.2	16.6	15.5	22.2	14.7	19.7	20.4	26.4	20.5	28.7
50～59歳	1,591	1,478	28.7	38.4	28.2	38.2	15.7	18.1	16.3	23.1	14.5	17.0	21.5	25.7	19.0	25.8
60～69歳	837	1,196	37.6	45.2	31.8	43.6	21.3	27.9	19.8	30.6	16.7	19.3	25.1	34.0	19.7	29.9
末子年齢																
18歳未満	722	609	28.5	36.3	29.8	33.7	14.0	15.3	14.8	22.5	12.6	17.6	19.6	23.4	18.6	26.5
12歳未満	738	698	32.1	33.8	32.9	33.8	15.4	17.5	16.3	23.1	17.1	19.9	24.1	24.7	23.8	30.4
6歳未満	481	420	39.5	37.1	33.1	36.9	16.6	17.9	19.8	18.6	17.3	20.0	26.7	28.4	27.2	30.3
3歳未満	472	365	48.9	60.3	33.9	39.7	14.8	21.6	15.5	24.4	14.0	17.8	33.2	36.2	26.9	35.6
1歳未満	284	210	53.2	54.8	35.2	45.7	16.5	17.1	15.1	21.0	18.0	20.0	34.6	38.6	29.9	36.7
妻の就業形態																
常勤	963	1,061	45.3	52.4	34.9	44.8	21.8	27.0	30.3	37.1	23.5	28.3	33.3	36.4	34.1	43.8
パート	1,386	1,319	31.5	34.6	30.1	35.3	15.4	19.3	17.0	25.5	13.9	18.4	23.1	27.5	21.8	28.5
自営・家族従業	695	645	30.5	37.8	22.7	32.7	13.7	14.7	14.1	19.1	14.5	16.3	20.5	23.1	16.9	23.5
専業主婦	2,521	2,187	37.7	42.5	34.5	41.7	16.2	20.1	13.9	20.4	13.7	16.0	23.5	28.8	21.3	27.7

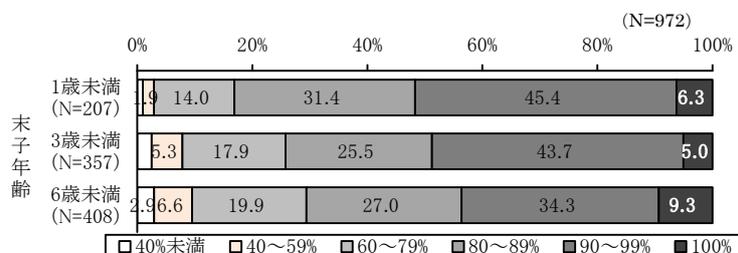
注1) 表中の数値は、各項目に対して「週に1～2回以上」と回答したケースの割合。

注2) すべての項目に対して有効回答したケースを対象に集計している。

注3) 妻の年齢69歳以下を対象に集計している。

(3) 夫妻の育児分担

- ・育児の 80%以上を妻が担うケースが多数を占めており、末子年齢が低いほどそうした傾向がより顕著である。夫の育児への関与は総じて低く、1 歳未満の子を持ちながらまったく育児に関わらない夫も 6.3%いる。

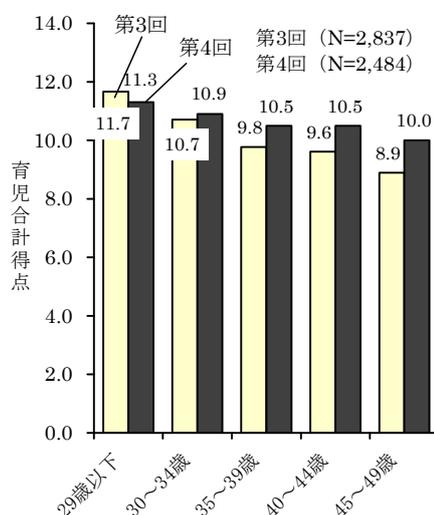


注) 妻の年齢49歳以下について集計。割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

図 6 末子年齢別にみた妻の育児分担割合

(4) 夫の育児遂行の実態と変化

・妻の年齢別にみた夫の育児合計得点の平均は、29歳以下を除いて第3回調査よりも第4回調査の方が上回っており、僅かではあるが夫の育児遂行は増進している。



注) 育児合計得点の計算は、各領域別に「月1~2回」行う場合は1点を付与、同様に「週1~2回」程度2点、「週3~4回」程度3点、「毎日・毎回」行う場合は4点、「やらない」場合0点とし、第3回との継続項目(遊び相手・風呂入れ・食事・寝かす・おむつ替え・あやす)6領域全ての得点を合算したもの。

図7 妻の年齢別夫の育児合計得点

- ・妻の年齢別にみた夫の育児遂行割合(週1~2回以上遂行する割合)は、20歳代では「寝かしつける」以外の項目で上昇はみられないが、他の年齢層ではすべての育児項目で上昇している。
- ・末子の年齢別にみると、末子年齢が1歳未満の場合、第3回調査に比べて全項目で夫の育児遂行割合がわずかに上昇している。
- ・妻の就業形態別にみると、妻が常勤である夫の育児遂行割合はすべての項目において上昇しており、「保育園の送迎」「食事をさせる」「寝かしつける」「おむつを替える」などの項目で、妻が専業主婦である夫の育児遂行割合を上回っている。

表2 夫の育児遂行（妻の年齢別、末子年齢別、就業形態別）

	総数		遊び相手		風呂に入れる		食事をさせる		寝かしつける		おむつを替える		あやす		保育園の送迎
	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	第3回	第4回	
総数	2,837	2,484	85.1%	88.7%	78.6%	81.7%	53.9%	59.5%	42.9%	47.4%	52.1%	57.2%	64.4%	65.6%	25.5%
妻の年齢															
29歳以下	306	212	96.1	96.2	83.7	81.6	64.7	58.5	47.4	54.2	67.6	64.2	77.4	77.4	32.2
30～34歳	569	447	91.9	92.2	78.9	82.3	59.8	62.4	47.3	47.7	60.6	63.8	72.7	74.5	31.3
35～39歳	648	631	86.4	89.2	78.5	81.3	54.3	62.8	43.4	47.2	54.6	59.7	65.0	65.5	25.0
40～44歳	656	617	80.9	88.0	78.7	83.6	51.4	60.3	42.2	48.5	47.4	57.4	60.6	63.7	25.0
45～49歳	658	577	77.1	83.5	76.1	79.5	46.0	53.4	37.4	43.8	39.7	46.4	54.2	56.4	22.0
末子年齢															
6歳未満	471	413	88.5	91.5	76.0	82.8	52.4	62.0	42.7	48.9	56.7	58.6	64.0	68.2	31.1
3歳未満	465	367	94.2	94.8	80.9	81.5	68.0	64.3	46.2	43.1	63.2	63.2	73.9	71.7	34.1
1歳未満	283	202	94.7	95.5	82.3	83.7	57.6	61.4	51.2	53.0	67.8	71.3	82.7	85.1	31.0
妻の就業形態															
常勤	513	523	82.8	90.4	79.3	82.6	56.5	64.2	42.9	52.0	55.4	61.6	66.0	67.5	35.1
パート	741	690	83.0	87.1	78.7	82.2	51.4	59.4	43.5	46.7	49.4	55.8	60.4	62.4	23.4
自営・家族従業	256	212	83.6	86.8	75.4	81.1	52.0	57.5	38.3	49.5	44.5	50.9	60.4	62.3	34.9
専業主婦	1,224	919	88.1	89.8	79.0	81.4	55.1	57.6	43.5	46.0	54.8	56.8	67.1	68.6	15.6

注1) 表中の数値は、各項目に対して「週に1～2回以上」と回答したケースの割合。

注2) 遊び相手・風呂に入れる・食事をさせる・寝かしつける・おむつを替える・あやすについては、これら6項目すべてが有効回答なケースを対象に集計している。

注3) 保育園の送迎については、第4回調査の育児7項目すべてに有効回答しているケースを対象に集計している。

注4) 妻の年齢以外の属性については、妻の年齢49歳以下を対象に集計している。

(5) 夫の育児遂行と妻の就業継続および子ども数

- ・第1子出産を機に仕事を継続するよりも退職するケースの方が依然多いが、全体としてみると比較的夫が育児に関与している育児得点の高い層で仕事を継続した割合が、育児にあまり関与しない育児得点の低い層で退職する割合が高い。

表3 結婚持続期間別、夫の育児得点別にみた第1子出産時の仕事状況の変化

結婚持続期間	育児得点	総数	仕事を継続	退職した
総数	総数	878	29.5%	70.5%
	第1三分位	332	21.4	78.6
	第2三分位	272	31.3	68.8
	第3三分位	274	37.6	62.4
	総数	239	33.1	66.9
0～4年	第1三分位	69	23.2	76.8
	第2三分位	79	31.6	68.4
	第3三分位	91	41.8	58.2
	総数	341	30.5	69.5
5～9年	第1三分位	148	25.7	74.3
	第2三分位	101	32.7	67.3
	第3三分位	92	35.9	64.1
	総数	241	25.7	74.3
10～14年	第1三分位	93	15.1	84.9
	第2三分位	77	28.6	71.4
	第3三分位	71	36.6	63.4
	総数	57	24.6	75.4
15～19年	第1三分位	22	13.6	86.4
	第2三分位	15	33.3	66.7
	第3三分位	20	30.0	70.0

注1) 育児得点は図7に同じ。第1三分位は育児得点0～9点、第2三分位10～13点、第3三分位は14～20点。

注2) 割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

- ・調査時点で子どもが1人の場合、育児得点の低いグループよりも高いグループで追加予定子ども数2人以上の割合は高い。また、現在の子どもの数が2人の場合、育児得点の低いグループよりも高いグループで追加予定子ども数1人の割合は高い。現在の子どもの数が1人の場合、2人の場合とも、夫の育児得点が高いほど、すなわち育児遂行の程度が高くなるほど追加予定子ども数は多くなる。

表4 現在の子どもの数別・夫の育児得点別にみた追加予定子ども数

現在の子ども数	育児得点	総数	追加予定子ども数(3区分)			平均値(人)
			0人	1人	2人以上	
1人	総数	454	39.6%	50.2%	10.1%	0.71
	第1三分位	161	42.9	50.3	6.8	0.64
	第2三分位	147	46.9	44.9	8.2	0.61
	第3三分位	146	28.8	55.5	15.8	0.89
2人	総数	579	86.2	12.3	1.6	0.16
	第1三分位	195	89.2	8.7	2.1	0.13
	第2三分位	180	87.8	11.7	0.6	0.13
	第3三分位	204	81.9	16.2	2.0	0.22

注1) 育児得点は図7と同じ。現在の子どもの数1人の場合、第1三分位は育児得点0～9点、第2三分位10～13点、第3三分位は14～20点、現在の子どもの数2人の場合、第1三分位は育児得点0～8点、第2三分位9～12点、第3三分位は13～20点。

注2) 妻の年齢49歳以下について集計。

注3) 割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

○出産子育てと妻の就業行動

- ・第1子の妊娠がわかったときに仕事をしていていた割合を表す就業率は69.1%、このうち第1子出産後も仕事を続けた割合、すなわち就業継続率は32.5%であった。また、妻が第1子の妊娠がわかったときに常勤であった場合、就業継続率は40.5%であった。
- ・第1子出産後の就業継続率は、妻の教育歴別にみれば4年制大学卒業以上で高く、地域別にみれば非人口集中地区で高い。

表5 第1子妊娠時の就業状態と第1子出産後の就業継続率

	総数	第1子の妊娠がわかったときの就業状態		第1子出産後の就業継続率	
		就業	就業者に占める常勤	全就業者	常勤
総数	2,530	69.1%	61.0%	32.5%	40.5%
妻の教育歴					
高校卒業以下	1,102	68.0	59.1	27.5	33.0
専修学校・高専・短大卒業	1,033	69.5	61.1	33.0	40.8
4年制大学卒業以上	362	71.3	67.8	45.7	59.4
地域					
人口集中地区	1583	66.7	59.5	29.0	37.6
東京都区部・政令市	509	63.5	59.8	28.8	37.3
大都市周辺	672	66.4	57.2	24.9	34.5
その他	402	71.4	62.7	35.5	42.2
非人口集中地区	947	73.0	63.4	37.8	44.7

注1) 集計対象は、調査時までには第1子を出産した49歳以下の有配偶女子で、第1子を妊娠したときの仕事の従業上の地位か出産後の就業継続の状態が不詳のものを除く。

注2) 人口集中地区のうちの大都市周辺とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県の東京都区部と政令市を除く人口集中地区。

- ・妻が今後たどりそうな人生経路で最も多いのは、結婚や出産で仕事を辞め、子どもが手を離れたあとに再び働きに出る再就業型の 54.6%である。次いで多いのは、結婚や出産に関わらず働き続ける就業継続型が 22.4%、結婚や出産を機に仕事を辞め、その後は働きに出ない退職型が 18.6%、その他が 4.4%の順である。
- ・結婚や出産を機に仕事を辞めた妻のうち、再び働きに出る再就業率は 74.6%である。
- ・妻の教育歴別にみると、4年制大学以上で就業継続型と退職型の割合が相対的に高い。
- ・地域別にみると、非人口集中地区で就業継続型、人口集中地区で退職型の割合が相対的に高い。
- ・親との距離別にみると、同居の場合に就業継続型、別居で1時間以上の距離の場合に退職型の割合が相対的に高い。

表6 属性別にみた現実のライフコース類型

	総数	就業継続型	再就業型	退職型	その他	再就業率
総数	1,780	22.4%	54.6%	18.6%	4.4%	74.6%
妻の教育歴						
高校卒業以下	821	21.2	57.6	16.8	4.4	77.4
専修学校・高専・短大卒業	709	22.4	54.0	19.3	4.3	73.7
4年制大学卒業以上	235	26.8	45.1	23.0	5.1	66.3
地域						
人口集中地区	1090	19.1	53.5	22.8	4.6	70.1
東京都区部・政令市	355	17.2	48.5	28.7	5.6	62.8
大都市周辺	458	18.1	55.2	21.4	5.3	72.1
その他	277	23.1	57.0	17.7	2.2	76.3
非人口集中地区	690	27.7	56.4	11.9	4.0	82.6
親との距離						
同居	492	30.7	51.0	14.0	4.3	78.4
別居	1028	17.7	56.8	21.1	4.4	72.9
1時間未満	762	19.4	57.2	18.9	4.5	75.2
1時間以上	266	12.8	55.6	27.4	4.2	67.0

注1)集計対象は、3歳以上の末子がいる49歳以下の妻。

注2)就業継続型とは「結婚や子どもの成長に関係なく、ずっと働き続ける」、再就業型とは「結婚や出産で退職し、子どもが手を離れたら再び働く」、退職型とは「結婚や出産で退職し、その後はずっと働かない」をそれぞれ表す。

注3)再就業率とは、再就業型と退職型の妻にしめる再就業型の割合のこと。

注4)同居には同一敷地内の別棟に居住するケースを含む。

注5)割合の合計は四捨五入の関係で100にならないことがある。

○家族に関する妻の意識

- ・家族に関する妻の意識をみると、賛成ないし反対のどちらが多数を占めるかという点については第4回調査の結果は従来の調査結果と同様であったが、性別役割や夫婦のかたちに関する考え方で第3回調査までみられた伝統的価値観を否定する回答の増加に変化の兆しがみられた。
- ・「夫は外で働き、妻は主婦業に専念」の賛成割合は、前回調査までみられた低下傾向が変化し、前回調査よりも3.9ポイント多い45.0%となった。
- ・「夫も家事や育児を平等に分担すべき」の賛成割合は、前回調査までみられた上昇傾向が止み、ほとんど変化しなかった(82.9%)。
- ・「子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たずに育児に専念」の賛成割合は、前回調査までみられた低下傾向が止み、前回調査よりも3.0ポイント多い85.9%となった。
- ・「夫婦は子どもを持ってはじめて社会的に認知される」の反対割合は、前回調査までの上昇傾向が止み、今回はやや低下して67.4%となった。

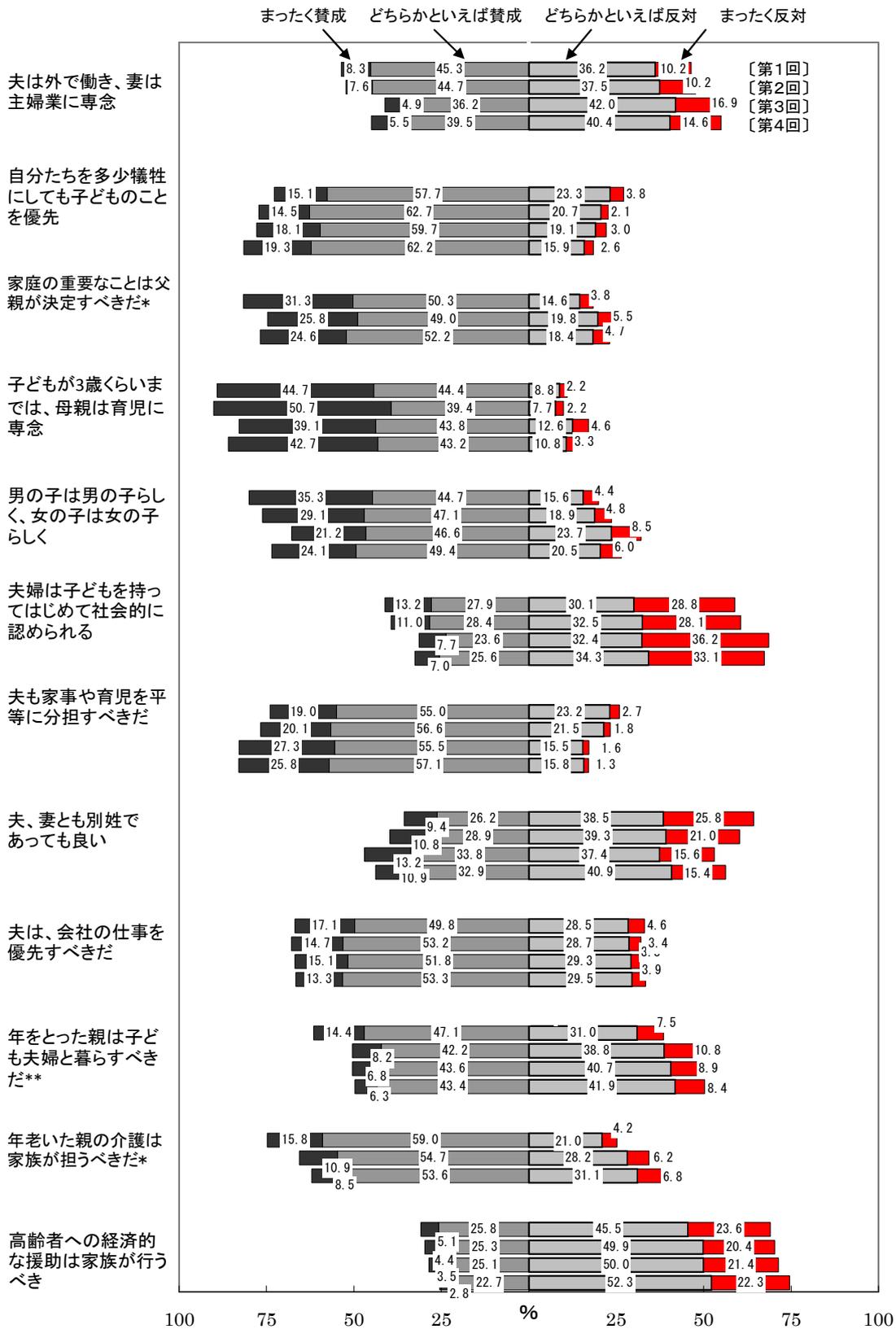


図8 家族に関する規範意識